

あんげろす

私事になるが、去る6月、日本ゲーテ協会のシンポジウムで「ゲーテと旧約聖書」という題で発表した。その準備のため三ヶ月はほとんど毎日ゲーテの文章を読み、ゲーテのことばかり考えて過ごした。ゲーテは旧約聖書を特定の宗教から解放し、オリエント文学の源流と考えていたようだ。そこから導き出される結論は、ゲーテの普遍志向である。普遍的とはドイツ語の *allgemein*、つまり *all+gemein*、すべてに共通する、すべてが共有できるという意味である。そのような普遍的なものが我々の浮世のなかにあるのかどうか。むしろ人のかかわるこの世のことどもを普遍的だと思ってしまうところに過ちが起こるのではないか。ゲーテはゲーテらしく文芸のなかで普遍というものを考えた。文芸のなかでのみ普遍は可能になるということであろう。

鵜殿 博喜

第17号

1997.10

